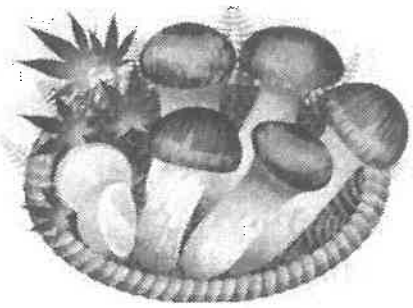
安全就業便り



（第 256 号）

令和７年度１１月１５日
安全・適正就業委員会

高齢者の運転は危ない？

75才以上の運転者による事故件数は75才未満に比べ2倍以上となっています。加齢に伴って危険に対する操作が遅れがちになる**『身体機能の低下』**や個人差はありますが、注意力や集中力、瞬間的な判断力の低下により、危険に気づかずにとっさの判断が遅れたりする**『認知・判断力の低下』**などが原因です。身体機能・認知機能のある程度化を自覚しつつも、慣れや長年の運転経験からつい油断して事故につながってしまう事例が多く発生しています。

就業先へ車で向かう途中に『交通事故』が発生

【状況】9時30分頃、就業先へ向かう途中、前方車との車間距離8メートル、40キロで緩やかな上り坂を走行中、朝日が眩しく視界が悪い状況の中、三叉路交差点の手前で前方車が減速したため、ブレーキを踏んだが間に合わず追突事故となった。病院へ救急搬送後入院。左手首骨折、左足甲の打撲、右足二ケ所縫合、現在リハビリ治療中となっており、傷害事故となっています。

【対策】①自身が高齢者であることの自覚持ち、反応速度が低下していることを認識し、車間距離を十分にとり、余裕をもって停止、発進できる距離をキープするようにする。②視界が悪い状況であれば車のサンバイザーの使用や運転用サングラスの使用を行うとともに、安全な運転に支障がある場合は、安全な場所で休憩をとるなど運転を控えるようにしてください。会員の皆さんが今回の事例を自分の事と受け止めて頂くよう、よろしくお願いいたします。

高齢運転者の交通事故防止のポイント！！

1. 身体能力の変化を自覚しましょう…車間距離を十分にとって、安全な速度で慎重に運転しましょう。また、運転前には体調を確認し、持病や服薬の状況によっては、運転を控えることも大切です。

2. 認知能力の変化を自覚しましょう…高齢者には複数の情報が入ってきた場合に、適切に処理する能力が衰える傾向がみられるため、思い込みや操作のタイミングミスなどが起こらないよう、あらかじめ地図や道順を確認し、複雑な交差点を避ける配慮も必要です。

3. 定期的な眼科検診を受ける…加齢や病気により視力低下や視野障害が起こることもあります。定期的に眼科を受診し、眼底検査を含む検診を受けておくと安心です。

4. 高齢者マークをつける…高齢者マークをつけて運転することは、**『自身の安全確保』**につながります。高齢者マークをつけた自動車に対しては、やむをえない場合を除き、車に幅寄せなどの行為を行うと、道路交通法違反となります。70才以上75才未満の方の高齢者マーク装着は努力義務ですが、貼っておいたほうが事故防止の観点から安心となります。

【安全運転を続けるための《さしすせそ》】

①さ 最先端 さいせんたん…自動ブレーキと呼ばれている**『衝突被害軽減ブレーキ』**やアクセル・ブレーキの踏み間違いを防止する**『ペダル踏み間違い急発進抑制装置』**など、最先端の安全機能の付いた**『安全運転サポート車（サポカー）』**への乗り換えを検討し、サポカーを選んで運転しましょう。

②し 指差し ゆびさし…安全確認を行うときは指を確認する方向に向け、指差し確認をしましょう。運転の開始時や赤信号・一時停止後の発進前に交差点の左右の確認等により正確に安全確認することができます。

③す 声に出す こえにだす…運転する際は「右よし」「速度30キロ」「歩行者注意」など声に出して確認しましょう。コメンタリー運転と呼ばれる安全運転の方法で、刻々と移り変わる交通状況を声に出し確認することで注意力の低下を防ぎ、危険に対する警戒心を高めることができます。

④せ 制限 せいげん…夜間や悪天候は運転しない、体調が悪いときは運転しないなど、危険を避けるルールをつくりましょう。運転に制限や条件を自らの意思で設け、それを守ることによって交通事故の危険性を低減する運転方法を制限運転や補償運転と呼びます。

⑤そ 相談 そうだん…目が見えづらくなった、道をよく間違えるようになった等、運転に不安を感じたら、家族や友人等の周囲に相談しましょう。